

令和2年度 第1回横浜市学校保健審議会会議録

日時	令和2年12月23日（水） 午後6時30分から8時10分まで					
開催場所	横浜市庁舎18階 みなと6・7会議室					
出席委員 7名	秋好 直樹	大木 昭子	大久保 辰雄	鈴木 裕子	戸部 秀之	藤田 純一
	物部 博文					
欠席委員 2名	河野 伸二郎 三原 聡子					
開催形態	公開					
議題	【審議事項】「ゲーム障害・ネット依存実態調査」の結果について					
決定事項	1 会議録の確認者は鈴木委員に決定する。					
議事	<p>1 会議録確認者の指名</p> <p>横浜市学校保健審議会運営要領第6条第2項に基づき、会議録の確認者は鈴木委員に決定する。</p> <p>2 【審議事項】「ゲーム障害・ネット依存実態調査」の結果について</p> <p>(事務局)</p> <p>昨年度項目を審議していただいた「ゲーム障害・ネット依存の実態調査」を令和2年10月に実施し、その調査結果を委員に説明した。</p> <p>(審議会委員より出された御意見)</p> <p>1 結果について</p> <p>ゲームをする子どもたちと親の関係が気になる。結果から小学生でも親と一緒にゲームをやっている状況は40%ほどしかないので、親はゲームを知らない形で子どもを放置していたり、ゲームの世界について話し合えていないことが予想されるので、その点は新しいデータになりうる。</p> <p>趣味を持ったり、運動する時間が増えることでゲームをする時間が明らかに減るということは、感じている。</p> <p>親が見ている前でゲームをするのは構わないと思っているので、見えないところでやるようになってしまったら依存度が高まっているのではないかと考える。</p> <p>今はテレビを見る機会が少なくなり、ユーチューブだけ見ている世代になっている。</p> <p>ゲームもインターネットも有用性のあるものなので、うまくコントロールしながら使うことが必要だと感じる。</p> <p>ゲーム障害とネット依存の重なりについては、すでに文献等で重なりがあることが示されている。</p> <p>欠損値の取り扱いは決めていかなければならない。</p> <p>2 報告書の方向性について</p> <p>読み手に分かりやすい報告書を作ることが大切。</p>					

データを明らかにしていくのはもちろん大切だが、学校現場や家庭でできるアドバイスにつながるものをメッセージとして出せたらよい。

因果関係が分かるとアドバイス等しやすいが、今回は横断調査なので、相関関係しか分からない。因果関係が分かるためには追跡調査が必要。

発達障害とゲーム依存の関係等が分かるといいが、今回の調査では難しいので、文献を引用しながら報告書に盛り込んでいければいい。

横浜の子どもたちが学年別にどういう実態か、ネットやゲームの依存の状態、それに付随する睡眠等の状況を基本データとして伝える。ネット依存やゲーム障害につながる要因とそれに対する対応策を考察で述べる流れがいと考える。

長時間使用している方が健康状態を損ねていたり、依存症になっているという分析があるとメッセージとしてはっきりするのではないか。

(事務局)

学年で回答されていない回答を欠損値として抜き、ゲーム障害の尺度である19番とネット依存の尺度である26番の2つの完璧なデータをまとめ、委員に見てもらい、次回審議会前に再度意見を集約まとめる。

(資料)

資料

- ・横浜市学校保健審議会名簿
- ・「ゲーム障害・ネット依存実態調査」アンケート集計・グラフ

特記事項

次回開催予定：令和3年2月